



第二回ブループラネット賞

受賞者記念講演会並びにシンポジウム報告書

平成5年11月3日 会場： 国際連合大学国際会議場

財団法人 旭硝子財団

第二回 ブループラネット賞 受賞者記念講演会並びに シンポジウム報告書発行にあたって

この報告書は、第二回ブループラネット賞表彰式関連行事として、1993年11月3日に、東京、国際連合大学国際会議場で開催いたしました受賞者記念講演会並びにシンポジウムの内容をとりまとめたものです。この企画は昨年につき第二回目となりますが、幸いにも様々な分野の方々から多大なご関心とご支援をいただくことができましたことに対しまして厚く御礼申し上げる次第です。

第一部として行われましたブループラネット賞受賞者による記念講演会につきましては、紙面の都合上、講演者から寄せられましたレジュメのみ掲載いたしました。それぞれの分野のご専門の方々に対して、より詳細な情報をお届けするため別途、当日の講演全文を収録した講演録を作成しておりますので、ご請求いただければ有り難いと存じます。

第二部で行われましたシンポジウムにつきましては、当財団が一昨年来実施してまいりましたシンポジウムや国際アンケート調査で、多くの方々から地球環境問題の最重要課題として指摘されております「人口問題」をそのテーマにとり上げました。人口問題につきましては、主として人口統計学をベースとしたマクロな視点からこれまでもシンポジウム等で検討されてきておりますが、当財団では人口問題が内包する多様な問題（例えば先進国の人口減少や女性の自己決定権など）を浮き彫りにすることにより、人口問題に関する議論をより実り多いものとしたいとの思いから人口統計学、社会学、倫理学、国際政治学など多彩な分野のご専門の方々をパネリストをお願いいたしました。2時間の議論では、十分焦点を絞り切れなかったとの反省は残りますが、提起された問題点やご意見の中から、人口問題の解決に向けて考慮すべき視点や、課題を汲み取っていただければ幸いです。

1994年3月

財団法人 旭硝子財団

目次

第一部 受賞者記念講演会 3

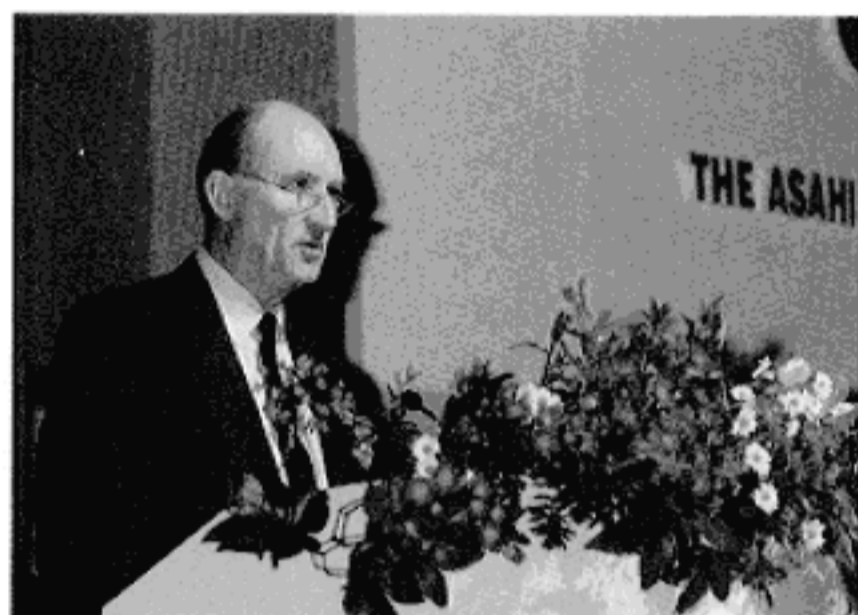
学術賞	受賞者紹介	チャールズ・デビッド・キーリング博士	4
	記念講演要旨	「大気中の炭酸ガス測定の概観 —地球温暖化に関する認識への影響—」	5
推進賞	受賞者紹介	国際自然保護連合(IUCN)	6
	記念講演要旨	「持続可能な生活に向けての戦略とその展開」	7

第二部 シンポジウム 「人類の存続条件の探求—人口問題に対する視座—」 8

コーディネーター	小出五郎 (NHK解説委員)
パネリスト	猪口邦子 (上智大学法学部教授)
	上野千鶴子 (東京大学文学部助教授)
	加藤尚武 (千葉大学文学部教授)
	河野稔果 (麗澤大学国際経済学部教授、 前厚生省人口問題研究所所長)

第一部

受賞者 記念講演会



1993年度ブループラネット賞推進賞 受賞者紹介

国際自然保護連合—IUCN(本部：スイス)

- 受賞業績 「40年以上にわたる、自然資産、生物の多様性の保全戦略立案、推進に果たしてきた国際的貢献」
- 活動歴
 - 1948年 フランス政府、ユネスコ、スイス自然保護連盟により、国際自然保護連合—IUCN設立。
 - 1961 IUCNの「モルサユ宣言」発布。
自然保護のための基金調達を目的として世界自然保護基金が設立される。
 - 1971 ラムサール条約(国際的に重要な湿地に関する)の採択。IUCNが事務局を務める。
 - 1980 世界自然保護基金、国連環境計画との提携のもとに、IUCNにより「世界保全戦略」刊行。
 - 1991 同じ提携関係に基づき「かけがえのない地球を大切に」刊行。
 - 1992 IUCN、ベネズエラのカラカスにて第四回国立公園・保護地域に関する世界会議を組織。



IUCNの前身であるIUPN—International Union for the Protection of Nature—は、第二次世界大戦後まもない1948年にフランスのフォンテンブローで設立されました。第二次世界大戦は人類にとって極めて大きな傷跡を残しましたが、しかし、それはまた、新たな国際協調への出発点でもありました。IUPNは、このような国際協調への関心の高まりの中で、自然と人間のかかわりを、市民・政府一体となった国際的な活動として構築しようとする人々の努力により、その産声を上げたのであります。その後、その活動の領域を拡大するため、1956年にIUCN—The International Union for Conservation of Nature—と改称し、また、1960年にはその本部をベルギーのブラッセルからスイスに移して今日に至っております。

申し上げるまでもなく、地球上のすべての生命体は、相互に依存し、また、水や大気などとも互いに影響し合いながらその命を維持しております。我々人類も、その生命体のひとつとしてこの地球上で繁栄しているわけですが、その繁栄は残念ながら他の生命体や自然のメカニズムの犠牲の上に成り立ってきたということを認めざるを得ません。しかし、人類がさらなる発展を望みつつ、このかけがえのない地球を次世代に引き継いでいくためには、すべての生命体が依存している自然システムの構造や機能、多様性を保全し、限りある地球資源を節度をもって利用しながら、人間・社会の発展を環境と調和させていかなければなりません。

IUCNが、その45年の歴史の中で目指してきたのは、まさにこのことであつたわけであります。現在では国、政府機関、NGO等773のメンバー組織を擁し、「種の保全」、「国立公園と保護地」、「環境法」、「生態学」、「環境計画」、「教育」の6つの委員会を母体に、6,000人以上の専門家がボランティアとしてその活動を支えており、自然や生物的多様性の保全に関する世界のセンターとして、不動の地位を確立しております。

その業績としてはなによりもまず、「世界保全戦略」や「かけがえのない地球を大切に」などとして結実した世界的な環境保全に向けての戦略の立案や、生物多様性条約、ラムサール条約、世界遺産条約等に関する国際会議での主導的役割が挙げられます。

また、各国政府や国際機関と協力しての保全プロジェクトの企画と実施、保護地域や保護動植物、野生種の貿易に関するユニークなデータベースの構築と管理、さらには「レッドデータブック」シリーズなどに代表される権威ある出版物の刊行など、枚挙にいとまがありません。そして、IUCNの活動は、今後もその強力な世界ネットワークを拡充しつつ、「市民・政府一体となった国際活動の展開」という設立当初の高い理想を一步一步確実に実現していくものと確信させるに十分であり、まさにブループラネット賞推進賞にふさわしいものであります。

最後になりますが、本日受賞のため来日しておられるIUCNのマーチン・W・ホルドゲート博士は、1988年以来今日まで、事務総長としてIUCNの隆盛を導いてこられました。その指導力と先見性は高く評価されるものであり、ここに深く敬意を表したいと存じます。

推進賞 受賞者記念講演要旨

「持続可能な生活に向けての戦略とその展開」

IUCN—国際自然保護連合

事務総長 マーチン・W・ホルドゲート博士

私達は今人類の歴史の転機に立っております。私達を取り巻く生命を守るシステムとしての環境と開発のための基本姿勢がいかに重要な役割を果たしているかということは世界各国で共通して認識されています。リオデジャネイロの地球サミットでは前例のないほど多数の世界のリーダー達が環境政策と開発政策が不可分であることを認めました。

他方、世界の環境は悪化を続けています。賞賛に値する開発の成功例は数多くありますが、概して開発による損失の埋め合わせは行われていません。またリオでは素晴らしいスピーチが多数行われたにもかかわらず、諸国の政府は資源を浪費し持続可能な開発に反する政策を追求し続けております。ある地域では、環境の悪化は今や民族の安全を脅かしてさえいます。

本講演はこの矛盾する問題についての原因の究明と解決へ向けての基本的問題に触れています。

問題の解決には今日の世界に見られる3つの特徴について考慮しなければなりません。

第一に、環境が悪化し衰退して人類の未来が危険にさらされていることは明白ですが、この環境の悪化と衰退が世界の社会経済的、政治的システムの重大な欠陥を示す徴候となっています。地球サミットではこのようなより深刻な問題への取り組みがなされませんでした。しかし環境の悪化と衰退の原因を取り除き、世界的な持続可能な開発を守ろうとするならば、この問題に敢然と取り組まなければなりません。

第二に、今日の国際的な法律や制度が制定される基礎となっていた国家体制はますます超国家的な、または世界的規模の経済、貿易、政治グループにまとまりつつあり、国際法の量は着実に増えています。ところが、国々の中で地域社会を重視し、そこに回帰していくという逆説的な現象が増えています。そしてこのことは特に持続可能な開発と健全な環境の保護の問題を解決するための鍵と見なされています。結果がどうあれ、国家的、国際的制度は流動的な状態にあり、しばらくはこの状態が続くようです。

第三に、非常に高度化した遠隔通信と旅行範囲の拡大を伴う世界的な情報化社会は、経済的、政治的、また環境上の課題に対する地域社会の対応に深い影響を及ぼします。

今年のブループラネット賞を受賞することとなったIUCN—国際自然保護連合は、国連環境計画と世界自然保護基金と提携して1991年に「かけがえのない地球を大切に—持続可能な生活のための戦略」を刊行しました。その文書には世界的規模の環境問題に取り組むための9つの基本原則と132の行動が定められています。ここには地球と人間社会を守るという原則や、個々の人々に知らせ、彼らを支援し、彼らの生活の質を高めることの必要性に始まり、各国レベルでの行動規範、さらに新しい国家的、国際的制度と提携の必要性に至るまで、あらゆる範囲が網羅されています。本講演で戦略とその原則が概説され、一般のおよび特殊な分野の様々な方針を実際の行動に移す手段が考察されます。

最後に、本講演は世界諸国の取り組みを環境保護の行動に変えていくIUCNならびにその他の組織の役割を述べ、日本が果たすべき特別な役割を提唱し、考えられる将来に対する楽観的また悲観的見解を概説します。